

<IT パスポート試験 講評>

ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の各出題数は、ほぼ公表された比率どおりです。用語選択の問題パターンは少なく(20%程度)、記述選択が大半であり、キーワードの正確な理解が求められる試験でした。

■小問形式(問1~88)

ストラテジ系は、問 1 や問 2(法務)、問 7(SWOT 分析)などの定番問題が出題されていますが、問 5(企画プロセスの成果)、問 6(リスク低減のための実践規範—システム管理基準)、問 14(組込みシステムのリアルタイム性)、問 24(大規模災害時の企業活動継続計画 - BCP)、問 25(閲覧者の行動解析 - アクセスログ分析)など難易度が高い問題も多数出題されたため、重要なキーワードだけの理解では合格圏の得点は厳しいと感じます。

マネジメント系は、サービスマネジメントの ITIL を中心としたインシデント管理などの用語と SLA、プロジェクトマネジメントのアローダイアグラムや WBS、システム監査の基本用語と内部統制など、重要なキーワードが 70%程度出題されたので、確実に得点できたと思います。

テクノロジー系は、難易度のばらつきは少ないものの、問 61(無線 LAN のネットワークを識別するもの—ESSID)、問 64(可用性が損なわれる直接原因)、問 66(ベンチマークテスト)、問 70(システム構成)や問 71(稼働率の計算)、問 78(トランザクション処理)、問 82(無線 LAN の規格)、問 84(PDCA-ISMS でのアプローチ)、問 86(IP アドレスの設定)などの全体的に難易度が高く、問 85(NTP)は基本情報でも出題されています。重要なキーワードを正確に理解していれば 60%以上の解答は可能ですが、確実に正解を導くには、基本情報に近いレベルの学習が必要でしょう。

■中間形式(問 89~100)

中間 A のシステム開発の契約、中間 B のプログラミングとテスト、中間 C の Web ページ作成の構成で、中間 A はストラテジ+マネジメント、中間 B はマネジメント+テクノロジー、中間 C はテクノロジーのみとなります。

中間 A では、RFP に記載すべき内容や保守契約の注意点、中間 B では決定表、中間 C ではディレクトリ構造や HTML、などの知識が必要です。全体では例年並みの難易度といえますが、個別に見ると、中間 A の RFP に必要な記述内容(問 89)や中間 B の 2 次元配列を利用した問題(問 96)、中間 C の解像度を求める計算(問 98)など難易度が高い問題も含まれています。

重要なキーワードの多少深い理解が求められているのと同時に、時間的制約の中で問題文を読解することも必要です。今回の試験を分析すると、次表のようになります。

分野	分類	2011/07(特別)		2010/10	
		出題数	全体比率	出題数	全体比率
ストラテジ系 (35 問 うち小問 32 問、中間 3 問)	企業と法務	15	15%	12	12%
	経営戦略	8	8%	9	9%
	システム戦略	12	12%	14	14%
マネジメント系 (25 問 うち小問 20 問、中間 5 問)	開発技術	9	9%	10	10%
	プロジェクトマネジメント	6	6%	9	9%
	サービスマネジメント	10	10%	6	6%
テクノロジー系 (40 問 うち小問 36 問、中間 4 問)	基礎理論	5	5%	8	8%
	コンピュータシステム	14	14%	8	8%
	技術要素	21	21%	24	24%
合計		100	100%	100	100%

時間配分、内容ともに、難易度が高い問題が多く出題されたこともあり、前回(2011 年度秋)よりもやや難しいと判断します。ただし、重要なキーワードを正確に理解していれば合格圏の得点は取れる問題です。

IT パスポート試験が対象とする人材像は「グローバルなコミュニケーション社会において、企業情報を安全に扱い、IT で明日の強い企業を創るビジネスイノベーションを支える基礎知識を持った人材」です。それを考えると、重要なキーワードを暗記するのではなく、正確に理解していれば合格とし、さらに情報処理技術者としてスキルアップを望む者には、より深い知識が必要であることを示唆したのが今回の問題であり、今後はこうした傾向の出題が増えると推測します。